

活動実践報告
京都府 京丹後市

健康長寿福祉部 生活福祉課
課長 山副 ゆかり
課長補佐 藤村 貴俊

生活福祉課の命題

京丹後市において
地域共生社会をどのように実現するのか



内山ブナ林（大宮町）

令和4年度から地域共生社会の実現に向けた重層的支援体制整備について検討をすすめ、今年度、まさに「京丹後市重層的支援体制整備実施計画」の策定に向けて検討をしていたところでした。



琴引浜（網野町）

本日のご報告は市の検討内容そして、包摂的コミュニティプラットフォームの構築との共通項についての報告です。

存在する「地域の絆」

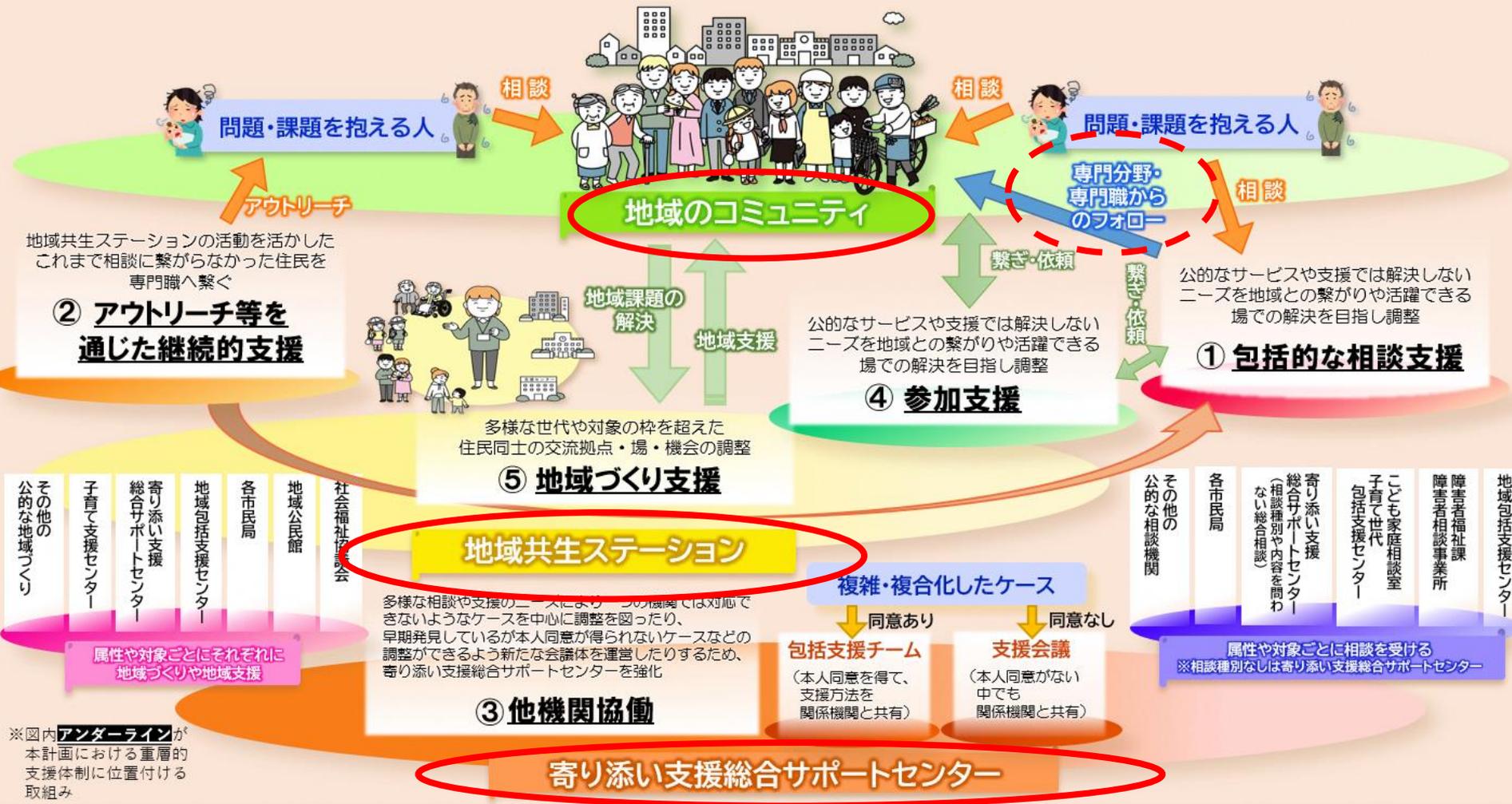
- ・ 不在でも家の冷蔵庫に配達される牛乳
- ・ 自治会加入率を当然すぎて把握していない
- ・ 転出しても地元の祭りの日は帰省する

それでも存在する社会課題

人口減少・少子高齢化・核家族化等により価値観が変化（個人化）し、「地域の絆」が希薄化する中で

- ・ 特に高齢者世帯（単身高齢者）の増加 孤立化
 - ・ プライバシー保護の意識の高まり 過保護
- といった課題が顕在化している

京丹後市が描く重層的支援体制(原課案)



※図内アンダーラインが本計画における重層的支援体制に位置付ける取組み

寄り添い支援総合サポートセンターで描く^(原課案)
(生活困窮・消費生活・障害相談・成年後見・重層多機関協働)

市民の権利擁護を担い 市役所福祉分野の中核を担う組織



野間川 (弥栄町)

誰ひとり置き去りしない
まちづくりを実現するための
複合課題に対応する機関

地域共生ステーションで描く^(原課案)
(地域づくり支援(生活困窮・高齢)・アウトリーチ・社会参加への支援)

地域福祉の推進の中核を担う「社協」
行政区を支援する「市民局」
社会教育を支援する「地域公民館」
の職員で構成



久美浜湾 (久美浜町)

京丹後市内の6箇所で、異なる
ライン（厚労省、総務省、
文科省）が協働して
地域活動を支える機関を設置

地域共生社会の実現に向けて事務局の評価

介護、障害、子ども、生活困窮、
地域福祉、災害時要支援者、消費者安全
いずれも制度を運用している
ネットワークも存在・運用している

今やるべきことは
やっているし
評価されている

住民からの苦情は
もらってない中
仕組みが必要？

しかし、住民の生活は制度でくっきりと
区切られていない

こんな大きな
プロジェクトを
誰が進めていくの？

総論賛成だが
現状は余裕なし

制度を中心とした仕組みから
住民を中心とした仕組みが必要

庁内のコンセンサスを得るための調整の難しさを実感

京都府立医科大学の新たな「見守りネットワーク」モデル構築 (包摂的コミュニティプラットフォームの構築) との共通項

地域共生社会の実現に向け

① 既存の見守りネットワークの再構築が必要

(生命・財産にまつわる重度な情報のみがやり取りされている)

② 地域の力を活かし、それを様々な専門職が支える仕組み

(様々な専門職は、福祉や教育であったり、医療や法律であったりする)

③ 金融機関や医療機関との密接な情報共有事例がない

(特に情報の秘密保持に対しての意識が高い機関との情報共有事例)

今後の「新たな見守りネットワーク構築」に向けた進め方

課題	対応	当面の活動	方向性など
現状把握	<ul style="list-style-type: none"> ・現存するネットワークの評価、金融機関など高齢者と接する組織の対応状況等の調査 ・高齢者の生活実態等を調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との間で目的等の認識を共有し、協働可能な関係性を構築したい ・今年度中に把握手法を決定し次年度実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居の後期高齢者へは対面ヒアリングを検討
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・本人同意がない情報を連携できる仕組み、枠組みの構築（支援会議.etc） 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中にどの範囲の法律を活用するか検討し、次年度には会議体の要綱を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・重層的支援体制に必要な大きな会議体としたい（重層、生困、消費者、孤独・孤立などの会議体を想定）
提供基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークが機能するための、住民の状況に応じた情報連携基準の明確化と周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの関係者とともに医学的知見や判定根拠なども加味したマニュアルを作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と接する機関や高齢者の現状を踏まえ、安全でわかりやすく連携しやすい仕組みを検討

ご清聴、ありがとうございました。

2024.12.25



「新たな見守りネットワークモデル構築のための 連携・協力に関する協定書」

1 目的

京丹後市の高齢者等が住み慣れた地域で安心して自立的な暮らしを実現するため、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（S I P）の取り組みにおいて、京丹後市の新たな見守りネットワークモデルを構築することを目的とする。

2 連携・協力事項

下記事項の実態調査・分析並びに情報・意見交換を実施し、協働で取り組む。

- (1) 重層的支援体制整備に関する事項
- (2) 法令にもとづく個人情報連携に関する事項
- (3) 新たな見守りネットワークモデルを構築・定着に関する事項
- (4) その他、協議により必要と認められる事項

3 主な事業内容

支援が必要な人を早期発見・早期対応ができる、新たな見守りネットワークの構築を目指す。

4 役割

【京丹後市】

- (1) 現在の見守りネットワークの現状の情報提供及び意見交換
- (2) 既存のネットワークを活用し、新たな見守りネットワークの構築に向けた検討

【京都府立医科大学】

- (1) 医学的・学術的知見、先駆的事例の提供
- (2) 新たな見守りネットワークを構築し、京丹後市を全国の先進的モデルとして発信

背景

- 高齢化の進展に伴い認知症患者や独居高齢者が増加するとともに、詐欺被害や孤独死などのリスクも増加
→ 京丹後市においても、後期高齢者は約1万人おられ、現在は5人に1人（21%）、2050年には4人に1人（26%）となることが想定される

京丹後市人口ビジョン将来推計より

京丹後市

高齢化社会に対応した
「新たな見守りネットワーク」
を構築したい

- ✓ 認知症など支援が必要な人を早期に発見できる
- ✓ 発見した情報を行政等と共有連携し適確・迅速に対応出来る
- ✓ 既存ネットワークを活用し、地域全体で、効果的・効率的な見守りが行える

京都府立医科大学の知見などを活用

見守りネットワーク
を協働構築

《連携・協力協定締結》



京都府立医科大学

「新たな見守りネットワーク」
モデルを実践・構築し
社会実装したい

- ✓ 金融機関、医療機関等、高齢者と接点のある多機関が連携し、支援が必要な人を早期に発見できる
- ✓ 医学的知見の社会実装、医学的知見による社会課題解決を図る
- ✓ 先進的モデルとして全国発信できる

京丹後市を全国の先進的モデルへ

目的

京丹後市の高齢者等が住み慣れた地域で安心して自立的な暮らしを実現すること